

ブータン雑感（私からあなたへ）

Bhutan Telecom について

お客さんになってみるとその会社のサービスがよくわかる。

JOCV の I さんの電話の申し込みに付き合ってみた。

まず固定電話の申し込み：

申し込み用紙が 3 枚綴りだったが、一枚目だけ書いて申し込んだ（2 月 19 日）。

線番があるかどうか調べるので、次の週の月曜か火曜にもう一度来い、とのことだった。

次の週 I さんから連絡がないので金曜（2 月 29 日）に電話してみると、その後テレコムからは何の連絡もないとのこと。テレコムの受付に行くと、もう一度申請書を提出したら工事費を払うように言われた。工事費を払えば新番号を教えるとのこと。

腑に落ちないので、シンガイ・ドルジ氏に相談に行くと、OSP 課に連れて行かれた。

事情を話すと、線番を調べてくれて、もう一度受け付けに行くように言われた。

受付に行くと、申込用紙の 2 枚目、3 枚目も書くように言われた。

I さんでないと書けないので、I さんに電話して来てもらうようにした。

しかし、どうして一回で受付を済ますことができないのであろう。

電話の申し込みと同時にインターネットの申し込みもした。

しかし Dial-up の方法の説明はなし。Set-up 方法を尋ねると、支援センタにいけとのこと。

テレコムの敷地に入ってあちこち聞いてやっと支援センタにたどり着き担当者に Set-up の仕方を教えてもらう。

これも、Set-up の方法のマニュアルを受付に置けば済む話でないのか。

先日（2 月 x 日）、ワンストップ・ショップについて新聞の投書欄に載っていたので、どのようなところなのか、見に行った。Central Mall の向かいと書いてあったがなかなか見つからない。

しかたなく、昼飯を取ろうと、Zone Restaurant に入ると調整員の S さんと W さんがハンバーガーを食べていた。ワンストップ・ショップの話をすると、W さんが知っており教えてもらった。場所は、Central Mall の向かいのビルの奥であった。なかなか分かりづらい。

店の感じは明るくてよかった。3 人受付の女の子がおり、一人にブロードバンドの ADSL の申し込み方法を聞いたが、よく分からない。別の女の子が知っていて、申し込み用紙をもらった。しかし、受付で自分の会社のサービスの知識がないなんて勉強不足である。

7 月分の携帯電話の請求書が来た。支払期日が 8 月 25 日なのに私の所に請求書が来たのは

25日の夕方だった。当然窓口は閉まっており、翌日支払ったが、請求書の打ち出し・発送業務は、同じ部屋の向かいの席の職員が担当している。よく請求書が来るのが遅いと皆さんから言われているが、流石の私もこれにはムッとした。

職場の部屋が汚い。

PCが壊れたものや、不要になった書類(?)や雑多なものがつまれている。

各人の机の上も書類が乱雑に置かれている。一般的にどの部屋も乱雑であるがこの部屋は特に汚い。さらに、土埃が入ってきて、机の上がザスザスしている。マネージャーに言おうと思ったが、マネージャーの部屋も汚いので黙っている。

また、部屋の天井の蛍光灯も点けたり点けなかったりして暗い。無頓着である。

トイレは水が出ないときが多い。基本的には大きなバケツに水を溜めておきそれをひしゃくで流す。紙を使わないのでお尻もその水で洗うのであろう。

大のほうはインド式のしゃがむ方式である。

私はトイレットペーパーをいつも持ち歩いている。

アパートの大家

1月26日にアパートに入居した。

アパートに入る前から、契約書について作成するように言っているのに、なかなか作ってくれない。なんでも娘さんの一人が勤め先で仕事の合間に作るそうだが仕事が忙しくてなかなか作ってくれない。やっとドラフト作ってくれたと思ったら、大家がバンコックに旅行に行ったとのことでサインがもらえない。2週間ほどしてやっと戻ってきた。なんでも、母親(80歳)と自分の健康診断のためとのこと。しかしバンコックまで健康診断にいくとはブータン人としては裕福なのであろう。

大家の末の娘(24歳)が来て食事を作れるというので、Dinnerを月曜から金曜まで作ってもらいことにした。

しかし一食Nu.150(日本円400円)である。ちょっと高いなと思ったが、野菜中心であり、自分で作るとどうしても栄養が偏るので仕方がないと思って頼んでいる。本人は日本食(牛丼や肉じゃが)が作れるというがまだ肉じゃがしか作っていない。あとはブータン料理である。というより単に人参やアスパラなどの野菜をバターやチーズであえたものである。

それでNu.150は高いと思う。

大家(60歳ぐらいのおばさん)は気さくな人である。朝、用事でいくと決まって朝飯(おかゆ)を食べていけという。

昨日(日曜日)の朝ピンポンが鳴ったので出てみると、大家がおかゆ状態のもの(なにか

分からないがとうもろこしの粉を練っておかゆ状にしたもの) を持ってきた。
昔の大家と店子の関係の様である。

大家では犬5匹と猫1匹を飼っている。

犬は大きいのが3匹と小さいのが2匹である。小さいのは家の中で飼っている。
大きいほうの1匹は私を見つけると駆け寄って体当たりをする。かまってほしいようである。昼はほとんど寝ている。夜になると吼えている。大きい3匹がつるんで走っている。

大家には子供4人がいるが2人は遠くに住んであり、残りの娘2人が同じ敷地内に住んでいるようである。上の娘は子供3人がおり、一番上の子供は15才といていたので、本人は35歳ぐらいである。外国のNGOのブータン事務所に勤めているといていた。

大家はブータンの2大政党のひとつのDPTの支持者である。選挙のときは自宅の裏庭で女性支持者70人ぐらいを集めて集会を開いていた。

いつも部屋を掃除に来る使用人は50歳ぐらいのおばさんである。ネパール人だといっていた。子供2人いるがだんなとは離婚したそうで、自分が働かなければいけないといっていた。

アパートで困るのは鼠がでることである。いくら今年がネズミ年でもこれだけごめんである。

ストーブ

ブータンの電気ストーブはコイルヒーターのじわじわとあつたまるものであり、決して火事になる危険はない。洗濯物を上に載せて乾かしていても安全である。その代わりかなり寒い。アパートの部屋は一階の居間に2台置いている。二階の寝室には置いていない。一階からの熱が上がってくるので偲んでいる。職場は一人一台であるが、私には支給されない。請求は出しているのだがまだ来ない。隣の人のを使わせてもらっているが、申し訳ない。

道路工事

町のあちこちで工事を行っているが、労働者は外国人(インド)である。

タバコ

タバコは販売禁止になったはずであるが、吸っている人は結構多い。タバコも闇で買える。一箱 Nu. 50~Nu.100 (120 円~250 円) とのことである。レストランでの昼食代やタクシー代が Nu.40 から Nu.50 であるから日本での感覚からいうと 700 円くらいであろう。

日本に帰国したとき、カウンターパートのお土産にタバコを免税店で買って来た。ブータンに入国の時、タバコを持っているかと尋ねられたので持っているという、別室に行けと言われた。行ってみると税金を払えという。いくらと聞けば、1 カートン 1200 ヌルタム (3000 円) と言われた。2 カートン持ってきたので 2400 ヌルタム (6000 円) とられた。高いお土産になった。

傘

ほとんど傘をささない。ところでテンプーは高所 (2300m) で雲が近い。まわりの山々にかかっており、麓は雨でも山の上のほうは雪である。

山の上のほうは今日も雪だった。

小学生

小中学生は「ご (男性が着るドテラのようなもの)」や「きら (女性が着る着物)」を着ている。制服である。

低学年の生徒が「ご」や「きら」をきている姿はかわいい。

名前

ブータンでは男の名前と女の名前が同じである。

カウンターパートの名前が SONAM。同じ部屋には女性の SONAM がいる。

JICA 事務所でも KINLEY さんが男女いる。

ブータン女性のお化粧

ブータン女性のお化粧のポイントはどこでしょう。

まず、顔はすっぴんです。色も日に焼けて黒いです。

ですから正直なところ年はよく分かりません。

髪は、スレンダーで長い人が多いですが、ショートカットの人もあります。

パーマはかけていません。

爪は、私の隣の席の女性はマニキュアをしています。

服装で一番お金がかかっているように見えるのは上着です。色とりどりで柄もセンスがよく、高そうです。

上着、キラ（着物）、袴の袖の色のコーディネートが一番のポイントだと思います。

靴は革靴やサンダルなどいろいろです。寒いときでも素足の人も結構おられます。

ハンドバックは肩からかけるものが主流です。結構センスのよいものを持っています。

指輪も2つとかやっている人もおられます。宝石は好きなようです。

イヤリングをやっている人もいます。小鼻にピアスをやっている人がときたまみうけられます。

ブルーになった日

この国にゴルフ場が一か所ある。九ホールであるが、芝の手入れはよい。ゴルフ場の会員に登録してもらおうと、3月末の土曜日にゴルフ場に行きました。8000Nu（日本円2万円）払ったところ、写真が必要とのことと次の日また行った。ところが、アプリケーションが必要とのこと。アプリケーションの意味がわからず、SVの人に聞くとJICA事務所からの申し込み依頼書のこととのこと。JICA事務所に行き申し込むと、年度末で忙しいとので、作っておくとのこと。できるまでに一週間かかった。それをもってゴルフ場に行くとマネージャーがいないとのこと。明日来る、明日来るといわれて4回もゴルフ場に足を運んだ。まだ、マネージャーに会えません。いつになったら会えるのだろう。（今は会員になりました）

犬

この国の特徴は犬が多いこと。ドック（電龍）王国でなく、ドック王国である。全部放し飼いなので野良なのか飼い犬なのかよくわからない。一応飼い犬は首輪をつけている。おのおの縄張りがあるようだ。

飼い犬でも野良と仲良しなもの、敵対的なものもある。その辺の区別がよく分からない。

大家も五匹の犬を飼っているが、そのほかに敷地内を根城にしている野良もいる。

夜になると、大家の犬は敷地内を見回り、縄張りに入ってくる犬を撃退するために、徒党を組んでほえまくる。

夜歩くときは、他の犬の縄張りを侵さないように注意する必要がある。

蠅

ブータン人はほとんどが仏教徒であり殺生を嫌う。また輪廻転生をほとんどの人が信じている。そのためか、蠅も殺さずにそっと逃がしてやるとのこと。

小生の仕事場のデスクはコーヒーや紅茶を入れるテーブルの近くである。

テーブルには飲み残しのカップなどが置かれており、常時、蠅のたまり場になっている。多いときには 10 匹以上がたむろしている。

当然小生のデスクにも飛んできて、小生の手や顔に遠慮なく止まる。煩わしい。

最初は、手で払っていたが、あまりにしつこいので、周りに職員がいないときは新聞紙を丸めて打ち殺していた。最近ではエスカレーターし、職員がいるときでもバシバシ叩いている。

ブータン人がなんと感じようがそんなのお構いなしである。

日本人は残酷だと思っているだろう。

ちなみに蚊はさすがのブータン人も打ち殺すとのこと。

弁当

小学生も勤め人もお昼の弁当を持っていく。

かごにプラスチックの丸いおひつにご飯とおかずを入れている。

おかずの中身が知りたかった。

ある日、お客様係りのサンゲがお昼ご飯を持ってくるので一緒に食べようといわれた。

どんなおかずなのかと期待していたが、やはりダチ（チーズ煮）でなす茄子（ドロンのダチであった。

別の女の子も一緒に加わったが、彼女のはジャガイモのダチ（ケワダチ）であった。

この国は、食べ物は貧富の差がない。なんでもダチである。それ以外がない。すべて平等である。ここの食事を経験すれば、日本の食事はいかにバラエティに富んでいるかがよく分かる。

胃炎

某金曜日夜 11 時過ぎに胸や背中に激痛が走った。なかなか止まらない。起き出してインターネットで病名を当った。背中が苦しい。狭心症の症状のように思った。

健康管理員の A さんの携帯に電話した。

病院の救急棟で落ち合うことになった。

大家の娘さんに電話して病院まで送ってくれるように頼んだ。娘さんは小雨の中すぐ来てくれた。このような時、日ごろから大家さんとコミュニケーションを密にしていた助かった。

病院に着くと A さんが待っていた。すぐ医者が診てくれた。まだ若い女医さんであった。

直ぐ心電図を取った。心臓に異常はないとのこと。まず、心筋梗塞や狭心症の疑いは消え

た。胃だといわれ、痛み止めの注射をしてもらった。30分ぐらいで痛みもなくなり、その後アパートに戻った。

それからちょうど一週間後、それまでなんともなかったのにまた金曜日の夜10時半ごろから痛み出した。今度は吐き気も伴った。吐き出したものに血が混じっていた。これは少しまずいと思い、また健康管理員のAさんに電話してまた病院に行くことになった。

少し気が引けたが、また大家さんの娘さんに車を出してもらおうようお願いした。

娘さんは友達の家でパーティをしていたが、直ぐ来てくれた。

今夜は病院に泊まることになるであろうと、枕と毛布を持っていった。

Aさんも毛布を持ってきてくれた。

その夜はあいにく急患が多く空きベットがなく、取り敢えず移動用の寝台に横になった。

向かいに土色の顔をして目のくぼんだ爺さんが同じように移動用の寝台に点滴をしながら横たわっていた。

横になっても吐き気がおさまらず、また、大も小もしたくなってトイレにいったがトイレに紙がない。Aさんが医師からガーゼを貰ってくれた。

また痛み止めの注射をしてもらったが、今度は中々きかなかった。少し脱水症状があるということで水分補給の点滴をすることになった。

点滴をするとどうしてもトイレに行きたくなる。三度ほど点滴液を吊すスタンドを引きずってトイレに行った。

明け方少し眠ることができた。痛みもなくなっていた。

胃カメラを取るということで、外科医が朝きた。スキンヘッドの年配の医師であった。Aさんの話ではいったん退職したがそのあとも病院に来ているとのことであった。当直の若い医師に質問していたが、問診が不十分だと指導をしていた。

検査結果、胃炎であり、炎症があること、バクテリアの痕跡があること、ポリープが2つあり、組織を取って検査をすること。癌ではないとのことで一安心。

その後退院することになった。大家さんの娘さんが迎えに来てくれた。

サンドイッチとおかゆとお茶を持ってきてくれた。

薬を貰い、一部は途中で購入してアパートに戻った。

お昼ごろ、大家さんがまたおかゆを持ってきてくれた。夜になると使用人がダル（豆のスープ）とご飯を持ってきた。大家さんには大変お世話になった。

大掃除

9月のある土曜日に職場の大掃除があった。

今まで壊れたパソコンやいらなくなった書類などが部屋の隅に山積みになっていた。他の事務室はきれいなのになぜか私の事務室だけが汚かった。

マネージャーに言おうかと思ったが、マネージャーの部屋もけっこう汚いので言わないで

おいた。

事務室が汚いのはマネージャーの性格によると思った。

そのいらぬものを土曜日に職員が出勤して一掃したようだ。見違えるようにきれいになった。お茶を入れるテーブルも反対側にもっていき、私の周りに蠅もいなくなった。

ただファイル類がまだ山積みになっている。棚を購入すれば解決する話だがなぜか棚を購入しない。お金がないのか気がつかないのか定かでない。

しかし、まずは、めでたし、めでたし

一部の技術者の昇給

今 BT で問題になっているのは 6 月に一部 (11 名) のスキルのある技術者の突然の昇給である。昇給した技術者はいいが、昇給しなかった多くの技術者に不満が高まっている。昇給した理由は、スキルのある技術者不足にある。

優秀な技術者を他者に引き抜かれることを防ぐためである。

今年 4 月に新たな携帯電話会社 (Tashicell) が立ち上がり、BT から 5 人の技術者が引き抜かれたからである。

今後も IT 関連のスキルのある技術者が不足し、他社に引き抜かれるのを阻止する目的である。

しかし、ここで問題になってくるのは、技術者間で賃金格差の拡大のみならず国全体から見た賃金格差の拡大である。

技術者の不足は教育の問題が大きいといわれている。

多くの親たちは子供を海外に送って教育するのがブータン人のスタンダードになっている。

国内の教育内容と必要とする技術者とのミスマッチが大きいといわれている。

JICA では多くの IT 関連のボランティアをブータンに送っているが、多くは現場 (学校等) に配属され、大きな意味での IT 教育全体の改革に携わっていない。

IT 教育政策のための専門家・ボランティアの派遣が必要と思う。

蝉

9 月半ばを過ぎても蝉が鳴いている。今が盛りようだ。

お店のおばさん

いつも新聞 (クエンセル) を買っている店のおばさん (40 歳くらい) の武勇伝。

店の前にゴミを入れるための段ボール箱を置いていたが、高校生ぐらいの生徒が 3 人道幅いっぱい横列になって話しながらやってきた。話に取り取られていたのか、わざとなのかわからないが、端の生徒がダンボール箱を蹴ってひっくり返してしまった。ゴミがそこらに散らばったが生

徒たちはそのまま行ってしまった。店から出てきたおばさん、何か叫んでいたが生徒たちは無視してそのまま行ってしまった。おばさん、200メートルぐらい彼らを追いかけ、彼らを店までつれ戻した。偉いものだ。

できちゃった婚

第四番目の王女の結婚式があった。

首相の子息がお婿さんである。やんごとなき方々の結婚なのでおめでたいのであろうが、巷の噂ではできちゃった婚で、おなかが目立たないうちに結婚しなければと結婚式を急いだそうである。

できちゃった婚なんて日本でもよくあるが、王族でもあるんですね。

この国では何人妻をもってもよいことになっている。第四代国王は四人の奥さんがいた。ダショー（高官の称号）を与えられた某 JICA 専門家にも、日本人の妻のほかに、ブータン人の妻がいた。その間に二人の子供もいたとタクシーの運転手が教えてくれた。家庭教師の話では、実際にはお金持ちでないと妻を何人も持てないそうである。ちなみに、一婦多夫も認められているそうである。農村部では嫁さん一人を兄弟で分け合っていることもあるそうである。

犬のホスピス

大家が敷地内に古材で小屋を立てた。どうも犬がいるようだ。覗いてみると、年老いたり、病気になってよぼよぼになった犬が7、8匹寝そべっていた。病気の犬は毛がほとんど抜けて、皮膚病に罹っているのか、かさぶたになっている。

大家の話では、死にそうな野良犬を拾ってきて世話をしているのだという。どうみても回復の望みのない死を待つだけのような犬たちである。そのような犬に水や餌を当てている。そして毛の抜けた犬にはちゃんちゃんこを作って着せて寒さを防いでいる。

子犬など、かわいい犬にはだれもが寄ってくる。しかし、醜く、汚く、臭い犬には人は見向きもしないし、嫌悪感さえ覚える。それらを集めて世話をするというのは酔狂ではできない。宗教観の違いなのか。ブータン人は輪廻転生を信じている。元厚生省幹部とその家族の殺傷事件で日本では保健所で毎年50万件が処分されている犬の敵と言われている。

日本に一時帰国をして戻ってみると、犬はすべていなくなっていた。冬の寒さに耐えられずに死んだのだろうか。